

広がるアスリート支援

職場の理解、事例発表

浦和区でシンポジウム

「埼玉スポーツの未来を考えるシンポジウム」(県体育協会主催、県共催)が11日、さいたま市浦和区で開かれ、県内の各競技団体や企業、大学関係者ら約120人が参加した。シンポジウムは、県のスポーツ情報を共有し、新たな関係構築に向けた交流促進などを目的としている。アスリートの支援に関する講演も行われた。(丹羽良平)



パネルディスカッションで競技と仕事の関係について語った浜田美咲さん(中央)と上原依万里さん(右)＝11日午後、さいたま市浦和区

スポーツ選手の支援事業を手掛ける「アスリートエール」の岡本晃昌専務理事は「選手が病院のことが好きであることが感じられ、距離感とコミュニケーションがうまくいっている。長年続けることで、病院もアスリートを支援する意味が高まっているのではないか。このような事例が増えてほしい」と述べた。

パネルディスカッションで登壇した2008年北京五輪のボート競技女子軽量級ダブルスカル9位で、戸田中央総合病院ローイングクラブ(男子ボート部)所属の浜田美咲さん(35)は「日本代表になっ

てからは多くの時間をボートの合宿や海外遠征に行かせていただいたいて、職場の皆さまには本当に感謝している」と振り返った。

戸田中央総合病院メディックス(女子ソフトボール部)の上原依万里主将(25)は「午前中で仕事を上がり、午後練習をさせていただいているので、少しでも病院に貢献できればと、(通常より)1時間早く仕事に行っている」と語った。